

日本音楽集団 コンサートシリーズ No. 31

51年 1.28. 水 . PM 7.00.

青山タワーホール 地下鉄外苑前 1,200円

小山清茂作曲

四重奏

—和楽器のための—

箏 野坂恵子

箏 坂井とし子

十七絃 宮本幸子

尺八 宮田耕八朗

杵屋正邦作曲

去来

三絃 杉浦弘和

三木 稔作曲

文様 I・II

箏 野坂恵子

箏 砂崎知子

十七絃 宮本幸子

小田切清光 詩

長沢勝俊作曲

溯河

—初演—

琵琶 半田綾子

—休憩—

三木 稔作曲
孤響

尺八坂田誠山

中能島欣一作曲

さらし

三絃杉浦弘和

箏坂井とし子

幻想曲

尺八宮田耕八朗

構成 杉浦弘和

舞台題字 浅香白洞

お問い合わせは 日本音楽集団事務局へ

渋谷区神宮前六・一六・一四小早川ビル2F TEL(四〇九)五三七四

迦 河

小田切清光

さかのぼる さかのぼる

しめやかに ひとすじに 鮭の群れは
月のひかりを背にうけて
恋の 一夜のしとねを求め

さかのぼる さかのぼる

思えば 四年まえ 雪どけの頃 この川で
わたしたちはうまれた

つめたく澄んだ水が 小さなからだに
こちよく 泳いだら からだが ひかった
泳いだら きらつとひかった ひかりの音符

わたしたちは ひかりの音符 陽ざしは タクト
流れる川は 五線紙だ ひかりの音符をはねあげて
春のよろこび かなでよう

この川で わたしたちはうまれた そして
すぐに 旅立ったのだ 海を めざして
あこがれを 胸に

はじめて見る海 蒼く 果てしなく広い海
起きあがり 押しよせ おそってくる波
押しかえされ 巻きこまれ 引きずられ
気がつくとき ここは もう海の中

いじけるな おそれるな 肩をよせあい
群れを乱すな はぐれるな

波をきり 波をけり 波のりこえろ 波に負けるな
のまれるな

凧の日 時化の日 やさしく きびしく
海よ あなたは わたしたちを 育ててくれた
傷を癒やしてくれた海 いつでも うたってくれ
た海 わたしたちは 育った あなたの子供
わたしたちは 育った 海よ あなたのよう
に 遅しいわかものに りりしいわかものに

四年の旅 終えて 帰ってきた ふるさとの海
なつかしき川

おお！ おお！ さかのぼる ふるさとの川がない
夢にまで見たふるさとの あの川がない

ここは どこだ おお！ おお！ おお！
ここは どこだ

月のひかりをもみ消してしまふ あの岸の
ざわめくあかりは なんだろう とびはねてみても
もう どこからも さかのぼるすべもない
川口にすら 近寄れぬ

目にしみる からだにしみる 息もつけぬ
どすぐろい死の泥 これは なんだ ここはどこだ
おお！ おお！ ここは 地獄だ

戸惑っているとき 音もなく 姿もなく
しのびよる網に 逃げるすきもなく つつまれて
いる さからいもむなしく 一網打尽だ
宙にすくいあげられて ああ 腹を裂かれ
押しつぶされ 冷えたうつわと めもりの中で
生産されるいのち ああ 愛もなく

さかのぼれ さかのぼれ

しめやかに ひとすじに 鮭の群れよ たゆみなく
たくましく

さかのぼれ さかのぼれ

ここを 地獄にしたのは誰 さかのぼれ
とりかえせ ここを 奪った者から

いじけるな おそれるな 肩をよせあい
こころとこころ ちからとちから ひとつにあわせ
さあ さかのぼれ さかのぼれ

地獄にするな 地獄にするな ふるさとの海を
川を わたしたちの世界を

「遡河」について

平曲以来、連綿としてつゞいて来た語り物としての琵琶楽の歴史は多くの名曲を生み出し、既に完成されたものとしてなかく私に創作の余地を与えようとしませんでした。

然し日本の音を考える場合、この楽器の音色をぬきにしては考えられないし、またその発声をみてもこれからの日本語の歌のあり方に多くの示唆を与えられるものが沢山あるように思ってきました。しかも現代の若者達がギターの弾き語りにも熱をあげているのを見るにつけ、あらためて弾き語りという手法に私は大きな魅力を感じてきました。

この作品は伝統的な琵琶楽に変革をせまるなどという大それたものではなく、私流にとらえた琵琶楽により、現代の公害問題と自然の尊さ、生命の尊さをうたいあげたものです。遡河は「そか」と読みます。詩の内容はお読み頂ければどなたにも理解頂けるのですが、その根底によこたわっている現代の日本が、かゝえこんでいる大きな問題をどう表現するかという点では私にとっても演奏者にとっても大変な冒険であったわけです。

最後に私のこの試みに心よく賛同され、すばらしい詩を書いて下さった小田切清光さんに深い感謝を捧げるとともに、このむずかしい仕事に共同してとりくんでくれた集団の半田綾子の勇氣に拍手をおくりたいと思います。

新年おめでとうございます。

日本音楽集団、今年最初の演奏会として、第一回「室内楽演奏会」を、本日開催するに当り、一言ごあいさつ申し上げます。

当日本音楽集団演奏会におきましては、今まで皆様に、多くの大編成曲を、お聴きいただいたいてまいりましたが、集団の、従来からの強い念願でありました「小編成のみによる会を、年一、二回開催したい」という事が、ここに実現する運びとなりました。その第一回目として、今回は、小山清茂、中能島欣一両氏の三重奏曲、杵屋正邦氏の三絃独奏曲、小田切清光氏詩、長沢勝俊作曲（初演）の琵琶弾き語り、三木稔の尺八独奏及び三重奏曲というプログラムを組んでみました。

今回は、五月十二日、同会場での会を、すでに計画しておりますが、従来の大編成曲を中心にした会とともに、今後は、本日のような、小編成による演奏会をも、併せてお楽しみいただけるものと、団員一同はりきっております。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

昭和五十一年一月

杉浦弘和

樂會

內奏

室演